

ロチェスター・ソーシャル・センター 運動の展開と帰結

赤木恒雄

倉敷芸術科学大学教養学部

(1995年9月30日 受理)

はじめに

アメリカ合衆国において、成人教育機能が公立学校の機能として定着する過程を概観すると、一般に3段階の変遷を経ていることがわかるであろう。

まず、19世紀半ばから生じてくる夜間学校の段階で、少年時代に学校教育の機会に恵まれなかった成人を対象に学校教育を提供するものであり、基本的には学校教育の対象を児童から成人に置き換えただけの段階である。次の段階は、19世紀末から展開される学校拡張運動の段階である。これは合衆国が工業国に移行し、急速な発展を遂げるに伴って生じた社会問題を解決するために、学校施設を一般成人に開放するものであり、運動場開放、レクリエーション・センター、ソーシャル・センターなど、様々な形態で展開された。最後の段階は、第1次世界大戦に関わって、連邦政府の指導のもとに、公立学校が一般成人よりも移民を対象にアメリカナイゼーション教育を実施した段階である。

この3段階を経て公立学校成人教育は成立するといわれるが、その概念に大きな影響を及ぼしたのが学校拡張運動である。とくに、ロチェスター市におけるソーシャル・センターの設立はそれまでの学校拡張運動の思想を大きく変えるものであった¹⁾。

ロチェスター市²⁾にソーシャル・センターが設立されたのは、1907年であった。ロチェスター市では、まず市民の3分の1を越える5万人もの人々が何らかの形で関わっていた11団体の代表から構成された「学校拡張委員会」が組織され、この委員会が教育委員会、市長などと折衝し、ソーシャル・センターを設立した。ここに設立されたソーシャル・センターの本来の原型は、『植民地時代の学校への回帰 (The Little Red School House back home)』の精神に基づく、近隣の人々のための共通の集会場所であり³⁾、従来のソーシャル・センターとは異なるものであった。

そこで、本稿はロチェスター市におけるソーシャル・センターの活動状況および設立以後の発展を明確にするとともに、その思想がどのように展開していくかを明らかにすることを目的とする。

I ロチェスター・ソーシャル・センターの活動状況

1. ソーシャル・センターの施設・設備

初年度に、教育委員会がソーシャル・センターとして使用することを認めた学校は、第14公立学校のみであった。しかし、2年度には、教育委員会は正式に第9公立学校およびウエスト・ハイ・スクールの2校をソーシャル・センターとして認めた。これら以外にも、ボランティアでソーシャル・センターとして開放された公立学校もあった。具体的には、初年度には第7公立学校、第12公立学校、第20公立学校などがあり、2年度にはさらに第36公立学校などが加えられた。ここでは、教育委員会が正規に認めた学校の3施設のみに限定して、その状況を見ることにする。

初年度に第14公立学校でソーシャル・センターとして使用された施設は、3階の集会場と1階の幼稚園に使用されていた教室、および普通学校の美術および物理教室であった。集会場は、1週間のうち5晩を体育館として、残りの1晩を講堂として使用された。また幼稚園に使用されていた部屋は読書および静かなゲームを行う部屋に当てられた。さらに、美術・物理教室はクラブ集会のために利用された。同時に、ソーシャル・センターとして使用されない部分を閉鎖する鉄の扉が取り付けられた。また、読書室にはアルバニー州立図書館より借り出された図書および住民によって収集された図書が配架された。

2年度に開設された第9公立学校では、体育館と講堂に使用するために集会場が、クラブの集会室として幼稚園に使用される部屋が、また読書およびゲーム室としてそれに続く一般教室が、さらにシャワー設備が完備していたことから更衣室として1部屋がソーシャル・センターに使用された。一般教室にはアルバニー図書館から借り出された図書が配架された。同時に、第14公立学校と同様に、ソーシャル・センターに使用されない部分を閉鎖する扉が取り付けられた。

ウエスト・ハイ・スクールでは、シャワー設備を持つ2つの体育館と食堂および図書館がソーシャル・センターとして使用された。また、ここには第14、第9公立学校とは異なり、ソーシャル・センターに必要な備品が備わっていたので、特別な準備としては、一般の校舎とソーシャル・センター部分とを区別するワイヤーゲートを設けることのみであった。

2. ソーシャル・センター活動の種類と活動状況

ソーシャル・センターの活動としては、①近隣クラブ活動、②例会 (General Evening) 活動、③図書館活動、④体育館活動、⑤音楽活動、⑥絵画展示会が挙げられる。それでは、それぞれの活動内容を見てみることにする。なお、絵画展示会については、紙幅の関係で省略する。

①近隣クラブ活動

近隣クラブは、さらに男性市民クラブ (Men's Civic Club)、婦人市民クラブ (Women's

Civic Club), 将来の市民クラブ (Coming Civic Club), 若い女性市民クラブなどから成りたつ。

a. 男性市民クラブ

男性市民クラブはその近隣に住む男性を対象にした, 自由で特定の党派, 宗派に属さない自治組織のクラブである。しかも, 近隣に住む21歳以上⁴⁾のあらゆる男性が会員としての資格を有しており, 会費も入会金も不要であった。このクラブの目的は, 「公共の諸問題(public questions)の公开发表と自由討論を通して知的公共心と友好関係を発達させることである。」⁵⁾ このクラブの開催時間は午後8時からであるが, 開催曜日は, 各ソーシャル・センターで異なつた。すなわち, 第14ソーシャル・センターでは, 火曜日, 木曜日, 土曜日, および日曜日の午後が, ウェスト・ハイ・ソーシャル・センターでは, 月曜日, 水曜日, 土曜日, 第9ソーシャル・センター⁶⁾では, 水曜日, 金曜日が当てられた。

また, クラブ集会は一般に次のように進められた。まず事務的の集会があり, それに続いて講師による講演が行われ, 講演終了後, 講演内容について質問および意見を述べる時間が5分程度取られ, そしてその後討論にはいる。討論終了後, 講師は質問に答え, 討論された問題を要約する機会を与えられる。

初年度に行われた講演の一覧表が表1である⁷⁾。これを見ると, 住民に直接関わる問題から教養的な内容まで, 多種多様な内容がテーマとして取りあげられており, この集会の性格や考え方が明確にされるであろう。

表1 プログラム

開催日	講師	講演テーマ
1907年12月 5日	クラブ結成	
12月12日	ウォード(Frank Ward)市会議員	「市会議員の職責について」
12月19日	カニングム(B. B. Cunningham)	「新たな宣言について」
12月26日	アドラー(Isaac Adler)会長	「公立学校拡張について」
1908 1月 2日	講演者の欠席	電話質問
1月 9日	ゴラー(G. W. Goler)保健官とロビー博士	「ロチェスターの牛乳について」
1月16日	フォーブズ(G. M. Forbes)教授	「パニックについて(1)」
1月23日	モーリー(Wm. Morey)博士	「トラストについて」
1月30日	ロッジ(C. V. Rodge)教育長	「貧しい人々について」
2月 6日	スペンサー(Nelson Spencer)	「都市政治の理想主義について」
2月13日	オズボーン(T. M. Osborne)閣下	「都市政府について」
2月20日	フォーブズ教授	「パニックについて(2)」
2月27日	リトル(B. C. Little)	「ロチェスターの水の供給について」
3月 5日	ダフィー(J. P. B. Duffy)委員長	「税金の徴収について」
3月12日	運動場での大衆集会 講演者: モーシャー(H. T. Mosher), チェース(B. Chase), 他	
3月19日	ランボール(E. A. Rumball)尊師	「ニューファンドランドの漁民について」
3月26日	バッソ(Bela Basso)尊師	「移民について」
4月 2日	宴会 カトラー(J. G. Cutler)閣下, キャロル(C. F. Carroll), フォーブズ, モーシャー, その他	
4月 9日	ラマー(John Lamar)尊師	「このコミュニティの諸問題について」
4月16日	ヴァナシニ(Louis J. Vannucini)	「イタリア人の疑問について」
4月23日	エーラー(W. G. Ehler)(クリーブランド在住)	「クリーブランドの都市環境について」

4月30日	モーシャー	「民主的政策について」
5月7日	キチェルト (Richard Kitchelt)	「社会主義者の政策について」
5月14日	シャルバー (Wm. Schalbar)	「禁止されている政策について」

b. 婦人市民クラブ

このクラブの目的は実質的には男性市民クラブの目的と同じであった。またこのクラブの特徴はこの組織の憲章の次の序文から窺い知ることができる⁸⁾。

人々は20世紀の婦人として、社会、家庭そして自分自身に対する義務を負う。その義務によって、我々は公共の諸問題について十分情報を得、そして仲間と幅広い同情を持つことを求められる。そして、演説者を確保するために、また討論、ディベート、催し物、そしてあらゆる健全な集会のために(婦人市民クラブを)組織化することは、これらの目的を達成するための最良の手段の1つである。

クラブ活動の開催時間は男性市民クラブと同じ夜8時である。活動に当てられた曜日は、第14ソーシャル・センターでは月曜日、水曜日、第9ソーシャル・センターでは日曜日の午後のみであった。さらにウエスト・ハイ・ソーシャル・センターでは火曜日、金曜日、および日曜日の午後であった⁹⁾。

c. 将来の市民クラブ

このクラブは「将来の市民クラブ」という名称から判断されるように、20歳以下の青年から成り、成人市民クラブをモデルとしている。両者の主な違いは、青年のクラブが責任あるものたちの監督下にあることであった。しかし、クラブ指導者たちはあらゆる方法で、青年たちに自治の精神を開発しようと努めた。

また、将来の市民クラブの憲章の次の序文からこのクラブの特徴を知ることができる¹⁰⁾。

世の中では、明確に思考し、自分の思想を上手に表すことのできる人が求められている。我々は自分たちの持つ明確な思考力と上手な表現力を訓練し、発達させる必要がある。努力することによって、最良の成果が得られるだろう。それゆえに、我々はディベート、エッセイ、演説、公開講読、討議を通して明確な思考力および上手な表現力を育成することを目的とする団体を結成する。

このクラブは、ソーシャル・センターの3施設において男性市民クラブと同じ曜日に開催された。ただ、開会時間は午後7時30分であった。そして1時間の集会終了後、参加者は各自体育館でスポーツを行った。

d. 若い女性市民クラブ

このクラブは、将来の市民クラブと同様に、成人市民クラブの特徴をモデルにして作られた。また各ソーシャル・センターで活動できる曜日は、婦人市民クラブと同じであった。

②例 会

これは1週間の内1晩、男性と女性、少年と少女が一堂に会し、自由討論あるいは催し物に興ずるために設けられた集会である。第14ソーシャル・センターでは金曜日の夜が当てられ、ウエスト・ハイ・ソーシャル・センターでは木曜日が、第9ソーシャル・センターでは土曜日がそれに当てられた。

また、例会への参加は自由であり、無料であった。さらに、ソーシャル・センター活動経費が非常に少なかったことから、講演者にはほとんど無償で講演を依頼していた。

注目すべき点は、例会の講義内容、講演者の決定が直接ソーシャル・センターに参加する住民によって行われ、その決定が公務員による他都市とは異なっていることである。

例会はふつう音楽とともに始まり、続いて講義がもたれる。その後社交的時間、あるいはバスケットの試合や他のアスレチック行事が行われる。

また、例会においてどのような講義がなされたのであろうか。一例として1909年度の第14ソーシャル・センターのプログラムを表2に示しておく¹¹⁾。

表2 プログラム

1909年	
10月15日	ホール(Bolton Hall) 『3エーカーと自由』などの著者 主題:「土地の使用について」
10月22日	リース会長(Rush Rhees) 主題:「自由と政府について」
10月29日	シュミット(Nathaniel Schmidt) コーネル大学教授 主題:「世界の諸問題と国際的政党について」
11月 5日	クラーク(Ernest R. Clark)教授 主題:「コロラドについて」
11月12日	トーマス(James Bishop Thomas)師 主題:「休息治療か、あるいは労働治療か?」
11月19日	スペンサー(Nelson Spencer) 主題:「信託と管財人について」
11月26日	クルザーズ(Samuel Cruthers)博士(マサチューセッツ州ケンブリッジ在住) 『寛大な読者』などの著者 主題はすでに通知済み
12月 3日	ゴラー(G. W. Goler)医学博士 保健官 主題:「ロチェスターにおける住宅環境について」
12月10日	フォーブズ教授 主題:「ノルエウエーについて」
12月17日	ケリー(Florence Kelley)婦人 消費者組合秘書 主題:「少女の労働について」
12月24日	トルーマン(Fred'k Truman) チャールズ・ディケンズの会長 主題:「オリヴァー・ツイストについて」
12月31日	音楽の夜
1910年	
1月 7日	ハンター(Robert Hunter) 『貧困』の著者 主題:「ベルギーの労働力について」
1月14日	ムーア(R. W. Moore) コルゲート大学教授 主題:「ファウストについて」

- 1月21日 ロイ(Bazanta Koomar Roy)(カルカッタ在住)
主題:「東洋と西洋について」
- 1月28日 キャンベル(Fred'k Campbell)(ブルックリン在住)
主題:「なぜ我々は美しい調べを愛するのか」
- 2月 4日 エルドリッジ(Bertha Pendexter Eldridge)夫人
読書
- 2月11日 マーウィン(Major J. B. Merwin)
主題:「リンカーンと同時代の人たちについて」
- 2月18日 クラップシ(A. S. Crapsey)師 神学博士
主題:「仲裁について」
- 2月25日 シェッド(K. P. Shedd)教授
主題はすでに通知済み
- 3月 4日 イタリアのコンサート
- 3月11日 モントゴメリ(W. A. Montgomery)夫人
主題はすでに通知済み
- 3月18日 バーンズ(Allen Burns) ピッツバーグ市民委員会秘書
主題:「都市の覚醒について」
- 3月25日 バイセル(Elmer Bissell)
主題:「ミハエル・アンジェロについて」
- 4月 1日 ドーリー(Frank C. Dawley)
主題:「1平方マイルの旅行について」
- 4月 8日 アーヴァイン(Akexander Irvine)(ニューヨーク在住)
主題:「来世には如何にしていけばよいか」
- 4月15日 最終日
-

③図書館活動

各ソーシャル・センターに図書館が開設され、ソーシャル・センター利用者に開放された。図書館には最近の20種類の定期刊行物、雑誌、日刊新聞¹²⁾、および図書が備えられており、その図書冊数は1,500冊を超えた¹³⁾。図書はその地域の人々によって集められ、維持・管理された。そして、誰であれ借り出し期限を超過した利用者には、超過日数当たり2セント1ファインの罰金が課せられた。

第14ソーシャル・センターの図書館は月曜日、木曜日の夜と日曜日の午後に住民に開放された。第9ソーシャル・センターでは水曜日、金曜日の夜および日曜日の午後に、ウエスト・ハイ・ソーシャル・センターでは月曜日、火曜日の夜と木曜日の午後7時半から8時まで住民に図書館が開放された。

また、住民により収集された図書は、500冊ずつの3グループに分けられ、各ソーシャル・センター利用者が平等に利用できるように、2カ月毎に3施設を循環するシステムが取られた¹⁴⁾。

④体育館活動

体育館として使用される集会場には、ダンベル、登り棒などの肉体鍛錬のための用具やレスリングのためのマット、バスケット用のコートなどが準備され、少年や男性がそれらを利用した。また、レスリング、バスケット、フェンシングなどのクラブも作られた。婦

人や少女たちに対してはフォークダンス、音楽を伴う床運動などが指導者のもとで行われた。同時に2年度より利用者に対して身体検査が行われた。

第14ソーシャル・センターでは、男性および少年が木曜日の夜、婦人および少女が月曜日の夜にその施設を利用でき、ウエスト・ハイ・ソーシャル・センターでは、男性および少年のために月曜日の夜が、婦人および少女のために火曜日の夜が当てられた。第9ソーシャル・センターでは、男性および少年に水曜日と金曜日の夜が、婦人および少女に日曜日の午後が利用可能な時間帯として当てられた。

⑤音楽活動

オーケストラがシェンク (Ludwig Schenck) 教授の指導のもとに結成され、リハーサルのためにウエスト・ハイ・ソーシャル・センターに毎週火曜日の夜8時に集合した。第9ソーシャル・センターでは、オーケストラやコーラスの練習に日曜日の午後が当てられた。そして、歌謡集が準備され、例会の際、これらの歌が披露され、参加者も加わり全員で合唱した。

3. 参加者数の推移

それでは、ロチェスター市においてソーシャル・センター活動は成功したといわれるが、市民はこれらの活動にどの程度参加したのであろうか。1907年度、1908年度の参加者数については表3-1、表3-2に示すとおりである¹⁵⁾。

表3-1からわかるように、1907年度の第14ソーシャル・センター活動参加者数は25,022人であった。具体的には、各クラブ活動、体育館活動、図書館活動、例会などの参加者である。また、正規のソーシャル・センター活動は一般に4月末に終了するが¹⁶⁾、初年度のみ、クラブ集会在が5月まで開催されたので、その参加者数が総参加者数に追加されている。なお、教育委員会により正式に認可された3施設以外にも、いくつかの公立学校でソーシャル・センター活動が行われた。さらに、第14ソーシャル・センターの参加者数が初年度に比較し2年度はかなり減少しているが、その理由は、後述するように、2年度からの方針の変更により、参加者の年齢が制限されたためと考えられる。

表3-1 第14ソーシャル・センター参加者数¹⁷⁾

1907年度			1908年度		
	参加者数	平均/1晩		参加者数	平均/1晩
1907年11月	3,787人	146人	1908年11月	2,476人	107人
12	3,550	142	12	2,543	91
1908 1	4,004	153	1909 1	2,798	94
2	4,032	162	2	3,147	121
3	4,762	177	3	3,080	146
4	4,189	161	4	1,110	111
5	698	87		—	—
総参加者数	25,022人	—	総参加者数	15,154人	—

表3-2 1908年度ソーシャル・センター参加者数¹⁷⁾

ウエスト・ハイ・ソーシャル・センター 第9ソーシャル・センター

	参加者数	平均/1晩		参加者数	平均/1晩
1908年11月	2,913人	135人	1908年11月	3,618人	257人
12	4,600	165	12	4,731	278
1909 1	2,761	120	1909 1	5,709	300
2	1,877	75	2	4,628	289
3	2,357	107	3	3,790	223
4	904	113	4	3,531	331
総参加者数	14,621人	—	総参加者数	26,007人	—

また、1908年度、すなわち11月1日から翌年の4月17日までの3つのソーシャル・センターの参加者数は55,782人であった。

4. 経費について

1907年、1908年度の経費については、表4に示す通りである。また、この経費には、運動場開放活動、職業学校、ソーシャル・センター活動が含まれる¹⁸⁾。

表4に示されている1907年度のソーシャル・センター活動費の1,372.51ドルは、第14ソーシャル・センターの準備費用と、11月と12月の2カ月間のソーシャル・センター維持経費であり¹⁹⁾、実際に初年度の第14ソーシャル・センター活動に支払われた金額は3,368.23ド

表4 ソーシャル・センター活動の収支決算

項 目	1907年度			1908年度 (単位:ドル)		
	取 入	支 出	残高	取 入	支 出	残高
市支出金	5,000.00			10,398.00		
運動場開放活動		2,857.10			4,023.30	
職業学校		770.39			787.89	
ソーシャル・センター活動		1,372.51			5,586.38	
総 額		5,000.00	0		10,397.57	0.43

ルであった。なお、ソーシャル・センター活動に必要な経費は査定委員会と一般評議会により特別に提供された支出金が充てられた²⁰⁾。そして、学校教育のために組まれた予算は学校教育活動に充てられるべきであるという理由から、全くソーシャル・センター活動経費には充てられなかった²¹⁾。

II ロチェスター・ソーシャル・センターの展開および結末

1907年に開設された第14ソーシャル・センター、1908年度に新設されたウエスト・ハイ・ソーシャル・センターおよび第9ソーシャル・センターの参加者の状況からして、ロチェ

スター市のソーシャル・センター活動は順調に船出したと考えられる。そのことは男性市民クラブでのダフィー委員の次の声明からも窺える²²⁾。

私が今夜この建物で見てきたことから判断すると、ソーシャル・センターは実験の段階を超えて継続され、評価されている。もしこのコミュニティにあるセンターから生じた素晴らしいことが他のコミュニティに知られるならば、私は数年内に、この目的のために市内にあるすべての公共の施設が使用されるであろうと確信する。

その一方で、教育委員会は、ソーシャル・センターの盛況さにも関わらず、初年度の第14公立学校を使用したソーシャル・センター活動をあくまで実験段階と捉えていた。そのために初年度が終了し、2年度の計画の策定段階で、その活動の発展を最小限度にとどめ、2年度も、第14公立学校のソーシャル・センター活動を初年度と同じ方針で継続し、新たに2つの学校施設をソーシャル・センターとして市民に開放することを決定した²³⁾。新たにソーシャル・センターとして開放される学校は、多くの外国生まれのアメリカ人が住む密集した地区に位置する第9公立学校と本国生まれの富裕な市民が居住している地区の中心にあるウエスト・ハイ・スクールであった。これらの学校の選定にも、初年度にソーシャル・センターとして第14公立学校を決定する時に用いられた条件、すなわち富裕な人や貧しい人が集中しない、また本国生まれと外国生まれのアメリカ人が共住している、多様な都市生活が示される代表的な地区にあるという条件が適用された。

また、ソーシャル・センター活動が2年目を迎えるに当たり、ソーシャル・センター活動の運営方針が次のように一部変更された。

最初の変更点は、初年度のソーシャル・センター活動には14歳以上の誰でも参加できたが、公立学校および教区付属学校、グラマー・スクールおよびハイ・スクールに籍を置く学校児童の参加を制限することが決定されたことである。学校児童を制限する理由としては、第1に、ソーシャル・センターの体育館活動などは時間的に限られているために、昼間に校舎を使用する機会のない人々が昼間部の生徒によりその機会を制限されるべきではないということがあげられる。第2に、生徒たちが夜間に外出することを認めることによって学校活動が妨げられるようになるという理由で、校長や教師からそれを許可することに反対する考えが出されたことである。第3に、沢山の子どもたちがソーシャル・センターの例会や催し物に出席することによって、成人たちの静かな楽しみが妨げられるからである。2番目の変更点は、多数の小クラブを統合し、単一で規模の大きなクラブにすることである。変更する理由としては、次のことがあげられた。第1に規模の大きなクラブほどよりよい講演者を獲得しやすく、より魅力あるプログラムを編成することが可能である。第2に、規模の大きなクラブの会員同士が幅広い交流をすることは、小クラブが集まりしばしば討論などの機会を持つよりもより有益であると考えられる。第3に、相互協力はグループ同士での競争よりもより強力な活動のための刺激であると考えられる。

3番目の変更点は、日曜日にソーシャル・センターが開催されることが決定されたことである。これは住民から日曜日の開催を求める要求があったためである。初年度、ソーシャル・センターは日曜日を除く曜日の夜間に開催され、校舎は日曜日には閉鎖されていた。それに対して、具体的には、ソーシャル・センター開設1カ月後に、第14公立学校の近隣に住む商人から「よく街角に立っていた年長の少年たちはソーシャル・センターの開設により夜間にその活動に参加しているが、日曜日の午後には街角にいる。なぜ彼らをその時間校舎に入れさせないのか。」²⁴⁾と、ソーシャル・センターを日曜日の午後には開催することを求める要求がなされた²⁵⁾。そこで、日曜日にすでに開園されている公園に鑑み、運動場を住民が使用できるように日曜日に開放する政策が、第9公立学校で試みられた。その結果、若者が親切的な監督の下で時間を費やす場所をコミュニティが提供することによってすばらしい効果が上がることが、第9公立学校の近隣の警察によって明らかにされた。これらのことを考慮して、教育委員会は公立学校をソーシャル・センターとして日曜日の午後2時30分から6時まで開放することを決定した。

そして、1908年4月1日に、第16ウォード・リパブリカン・クラブから第14公立学校の使用許可願いが教育委員会に申請されたことによって、ソーシャル・センターのあり方が、また教育委員会のソーシャル・センターに対する考えが明確にされた。

この問題は、4月2日に開催された男性市民クラブの宴会で討論の話題として取りあげられた²⁶⁾。そこでの討論の結果、ソーシャル・センターのあり方について2つのことが明確にされた。第1に、ソーシャル・センターはあらゆる話題を討論する集会のために自由に使用されるべきである。第2に、これらの集会は排他的な集団ではなく、住民に開放されるべきであり、「市民クラブ」として知られる男女の自由で、無党派の組織の保護下にあるべきである。

また、この集会で、教育委員会のソーシャル・センターに対する考えが、フォーブズ教授により明確にされた。彼は次のように述べた²⁷⁾。

心に留めておかなければならない考慮すべきことがある。校舎の本来の目的は教育的使用のためであり、本来の目的を妨げる何事もなされるべきではない。同時に、地区学校は政治討論のために開かれていた。この利用は子どもの教育施設としての校舎の使用を妨げてこなかっただけでなく、むしろ増加している。「この運動」はより大きな教育理念に従っている。それは市民権の養成の手段として学校に論理的に追加されるであろう。

彼の表現から、教育委員会の方針が、ソーシャル・センターをあらゆる人々が自由に無党派組織で、共通した基盤のもとに、関心のある諸問題を討議するために集まる場所にするということであることを窺い知ることができる。これらの条件のもとに、教育委員会に申請されていたこのクラブの許可願いは認可されたのである。

さらに、ロチェスター市民がソーシャル・センター活動を積極的に推進していることを表す出来事が1909年1月9日に開催された大衆集会に見られた。この集会では、来年度の第9ソーシャル・センターにおける活動の維持・継続について討議された。当日は、みぞれ混じりのひどい雨模様であったにもかかわらず、多数の市民がその集会に詰めかけ、準備していた1,000人余の人々を取容できる会場にも入りきらず、帰宅したのももいたといわれる。その集会において、その活動に設立当初から直接関わってきた男性クラブの会長は「ソーシャル・センターおよび市民クラブによって、我々は各人の戸口まで様々な問題をもたらす伝達手段を持ったのである。ロチェスターではその反応は注目に値する。そしてロチェスターが確かにその国の諸都市の中で先頭に位置づけられるはずであるというこの市における市民的プライドと関心が高まりつつある²⁸⁾。」と述べた。この集会の参加者はこのソーシャル・センター活動に誇りと自信を持ち、さらに来年度もこの活動が継続されることを強く望んだ。

ところで、ロチェスター市におけるソーシャル・センター活動は活発に展開されていたが、ロチェスター市以外ではこの活動に対してどのような評価がなされていたのであろうか。

バッファロー市はロチェスター市のソーシャル・センター活動に熱い視線を浴びせた。12月14日に、バッファロー市（ニューヨーク州）から31人の代表者たちがロチェスター市のソーシャル・センターを訪れ、バッファロー市の校舎を市民に開放すべきであるという推薦状を持ち帰った。彼らの訪問の後、エマーソン（Henry P. Emerson）教育長がロチェスター市を訪問し、数日間を費やして視察をした後、ある市民クラブの参加者たちの前で次のように述べた²⁹⁾。

私は教育制度と公立学校の発展を視察しにヨーロッパに行き、最近帰ってきたところです。昨夜あなた方のあるソーシャル・センターで得たことや今日ここで見聞したことから、私はロチェスター市がヨーロッパから導入する価値ある何物とも同じように発展しているという気持ちを抱いた。私は連絡もせずにロチェスター市に来た。なぜならば、私は市民が総出ではなく、ふつうの活動をしているソーシャル・センターを見たかったからである。それらはうまくいっており、人気もあるようだ。バッファロー市は進歩的であろうとしており、我々は進歩的と考えられるあらゆることをいつでも導入する。我々はロチェスター市からこの理念を導入すると思う。

彼は、上述の引用からもわかるように、ロチェスター市のソーシャル・センター活動を高く評価し、それを導入する用意のあることを明らかにした。

しかし、市長を始め、市民の熱烈な情熱は実現されることはなかったのである。なぜならば、エマーソン氏はこの声明を出した後、バッファロー市の機構がロチェスター市の「体制」がソーシャル・センター理念を認めてきたほどにはその理念を好まなかったことを学

び、そして市民が自分たちの町をコントロールできる手段を発展させることによって、都市を管理する人々を敵に回すことを嫌がったからである。

バファロー市以外の都市³⁰⁾でも、市民はロチェスター市の新しい精神に覚醒され、それに魅せられ、ソーシャル・センター活動を導入しようとした。このことは、1908年2月に、ソーシャル・センター指導主事がボストンやケンブリッジから、3月にはフィラデルフィアから招待され、ソーシャル・センター活動について講演を行ったことから明らかであろう。しかし、バファロー市と同様に、市民はその町を支配している特権グループが公共の諸問題について自由に討論する市民権組織に厳しく反対することに気づき、その結果、彼らはその活動をニューヨーク市で続いている温情主義的方法に変えるか、全くあきらめたのである。

他都市と同様に、ソーシャル・センター活動を活発に展開してきたロチェスター市においても、市民全員がそれに賛成したわけではなく、それを好ましく思わず、反対する人々も、ソーシャル・センター開設当初からかなり存在していた。

彼らのそれに対する抵抗は、様々な形態をとりながら展開された³¹⁾。それはまず初期の市民集会を支配することによって、市民クラブを占拠しようとする政治勢力の静かな動きとして現れた。さらに、数種の新聞を利用して、クラブの講演者達の軽率で、思慮の足りない批評をセンセーショナルに追求し、そして普通とは異なる出来事を誇張し、歪曲して、ソーシャル・センター活動に好ましくない印象や偏見を与えようとした。また、話題となっている諸問題について、社会主義者も他の人々と等しく意見を述べることのできるソーシャル・センターを、社会主義の宣伝活動のセンターであると市民に訴えた³²⁾。

やがて、2年間順調に継続されてきたソーシャル・センター活動は1909年に実施された市長選挙により、重大な危機に直面した³³⁾。この市長選挙において、アルドリッジを中心とする旧政治勢力は、ソーシャル・センター、特に自由討論を主要な論争点とし、民主主義勢力に対するすさまじいまでの反対キャンペーンを展開した。その一方で、アルドリッジはソーシャル・センター設立の中心人物であったウォード (Edward J. Ward) 指導主事³⁴⁾に協力を求めたが、得られないとわかるや否や、教育委員会に圧力をかけ、彼を更迭し、ソーシャル・センター活動の勢いを押さえようと試みたのである。それには失敗したが、市長選挙では旧政治勢力が勝利を納めたのである。このことは、ソーシャル・センターが支持基盤を失い、逆にそれに反対する旧政治勢力が予算編成権を手中に収めたことを意味した³⁵⁾。

一方、市長選挙の結果、ソーシャル・センター活動の今後に不安を感じた市民団体は、様々な行動を起こし³⁶⁾、ソーシャル・センターの存続を訴えた。また、勝利した旧政治勢力も市民の間に一度根付いたその活動を直ちに中止することはできなかった。その結果、ソーシャル・センターは3年度も存続することができたが³⁷⁾、予算を大幅に削減され、ソーシャル・センター活動を縮小せざるをえなかった。そして、この年度のソーシャル・センタ

一活動が終了した1910年の春、それはついに中止されたのである。

自由討論という特徴を持つロチェスター・ソーシャル・センターは旧政治勢力により他都市への発展を見なかつただけでなく、ロチェスター市においても旧政治勢力の巻き返しに合い、中止を余儀なくされた。これはまだ貴族政治が支配し、民主主義が確立されていない東部においてはすばらしい輝きであったが、同時に消える運命にあったといわざるをえないのである。ウィスコンシン州のゲイロード（Winfield Gaylord）上院議員はロチェスター市のソーシャル・センターを訪問して、この状況を次のように上手に表現している³⁸⁾。

これ（ソーシャル・センター）はニューヨーク州では奇跡である。それは美味なる神の食べ物であるが、その育つ環境がしっかりしていない。私はそれが夜通し続かなくなることを恐れる。もしそれがニューヨークに代わってウィスコンシンで発育されるならば、それは作物として育ち、安定するであろう。

ロチェスター・ソーシャル・センターのすばらしい活動が諸都市で評価されながら普及することなく、またロチェスター市においてもその活動にピリオドが打たれた1年後の1911年春に、皮肉にもテキサス州、ダラスにおいてソーシャル・センター開発に関わる最初の会議が召集された³⁹⁾。

そして、10月25日から4日間、第1回全国ソーシャル・センター開発会議（National Conference on Social Center Development）がウィスコンシン州マディソンでウィスコンシン大学拡張部の支持のもとに招集された⁴⁰⁾。この会議の出席者は、地域的には東部のニューヨーク州から西部のカリフォルニア州まで、また北部のノースダコタ州から南部のテキサス州までの広範囲に及んだ。そして、それらの出席者は都市クラブ、教育委員会、福祉委員会、教会、大学、さらには様々な市民及び社会改善協会の代表者であった。この会場には、新たな熱狂的意気込み、将来に対する新たな希望、考えや経験を変えようとする新鮮で熱烈的な関心がみなぎっていた。

この会議で、校舎を十分に使用することを推進するにあたり、温情主義的な考えと民主主義的な考えの2つが対立した⁴¹⁾。前者は、組織化されるべき全国協会の機構はニューヨーク運動の向上心を具体化すべきであるというニューヨーク市からの代表により提案された。また後者は、その運動は民主的な目的に基づいて行われるべきであるという西部の男女により提案されたのである。十分な討議の後、アメリカ・ソーシャル・センター協会（Social Center Association of America）を育てて行くべきであるということが最終的に同意された。そして、その協会の目的は「公共の諸問題についての自由な討議とすべての市民的、教育的、娯楽的諸活動のために、共通の校舎をコミュニティ住民が使用することを通して、知的公共心の開発を促進すること」⁴²⁾であると定められた。さらに、その会員に関するソーシャル・センターの基本的考え方が、この大会によって採用された規約に明確に記されている。すなわち、この協会のメンバーは合衆国の国民である。

ロチェスター市において住民主体のソーシャル・センターが設立されて以来、その思想は様々な障害に遭いながら、やっと全国組織に引き継がれ、大きく開花することとなったのである。

おわりに

本稿では、ロチェスター市に設立されたソーシャル・センターの活動状況およびその後の発展を明らかにし、その理念がどのように展開していったかを明確にした。

ロチェスター市では、1907年にソーシャル・センターが第14公立学校に設立され、2年度からはそれに第9ソーシャル・センター、およびウエスト・ハイ・ソーシャル・センターの2施設が新たに加えられた。そして、市民の自由で、積極的な活動、具体的には近隣クラブ活動、例会、図書館活動、体育館活動、音楽活動、芸術活動が定められた曜日の夜に行われた。そして、近隣クラブはさらに男性市民クラブ、婦人市民クラブ、将来の男性市民クラブ、若い女性市民クラブに細かく分かれ、住民の活動に適切に対応していた。しかも、ソーシャル・センター活動は、特定の政党、宗派に属さないもので、市民は誰でも自由に参加でき、入会金、会費も不要であった。また、近隣クラブ、例会で実施される講義内容、講演者を市民が自由に決定し、それに基づいた自由討論も活発に行われた。

しかし、植民地時代の学校の精神を目指して実施され、そして他都市から羨望の的であったソーシャル・センターも、やがてロチェスター市の政治体制の変更により、3年間の活動を停止するに至った。

ロチェスター市におけるソーシャル・センターの活動結果は次のようにまとめられる⁴³⁾。

第一に、住民の学習要求はロチェスター市のあらゆる場所で起こり、様々な近隣市民クラブが発達してきた。

第二に、人種、階級、信条、収入の違いに関わりなく、男性も女性も同じ人間であり、市民である。

第三に、校舎に集まる市民は公的財産を乱用する危険がないだけでなく、反対に集会を通して、校舎を修理し、美化しようという関心が高まった。

第四に、討論の自由が守られるだけでなく、それによって自尊心、誠実さ、親切が高められる。

第五に、校舎での市民集会によって、公平の精神が示されるだけでなく、あらゆる公的な問題について賛成・反対の意見を公平に聞くことができるようになる。

第六に、公共の諸問題を提示する公務員は市民クラブがお互いに話し合い、協議するために提供する機会を歓迎する。

第七に、近隣市民クラブ参加者は同情や理解の寛大さを育成するだけでなく、共通の福祉のための行動に覚醒された市民的精神を表現する傾向にある。

このようにまとめられるロチェスター・ソーシャル・センターの思想は、1911年にウィ

スコンシン大学大学拡張部の支援のもとに開催された第1回全国ソーシャル・センター開発会議、さらにそこで決定されたアメリカ・ソーシャル・センター協会に引き継がれ、それを通して全米に普及していくことになる。

それゆえに、ロチェスター・ソーシャル・センターは自由討論や諸活動のために、住民が公立学校を自由に利用するという形態を確立したという点で、後に成立する公立学校成人教育の原型をなすものであるといえる。

注

- 1) 詳細については、拙稿「アメリカ公立学校成人教育に関する研究(Ⅱ)ーロチェスター・ソーシャル・センターの思想を中心にー」(『大下学園女子短期大学研究集報』, 第19集, 1982)を参照のこと。
- 2) 1910年国勢調査によれば、1910年のロチェスター市の人口は、218,149人であった。
- 3) Edward J. Ward, "The Little Red School House," *Survey* 22, 1909, p. 640.
- 4) 初年度は、14歳以上であった。2年度から21歳以上に変更になった。
- 5) *No. Fourteen Social Center - Season of 1909-1910*, Rochester, N. Y., p. 4.
- 6) 第9公立学校校舎は、月曜日、火曜日、木曜日の3日間夜間学校に使用されているために、ソーシャル・センターとして使用できるのは残りの水曜日、金曜日、土曜日、日曜日の4日であった。この点で、一週間ソーシャル・センター活動に利用できる第14公立学校やウエスト・ハイ・スクールとは大きく異なる。
- 7) *Rochester Social Centers and Civic Clubs - Story of the First Two Years-*, The League of Civic Clubs, 1909. p. 36.
- 8) *Ibid.*, p. 75.
- 9) ウエスト・ハイ・ソーシャル・センターの日曜日の午後については、婦人によるコーラスが認められるまでは、男性および少年のクラブに当てられていた。
- 10) *No. Fourteen Social Center - Season of 1909-1910*, op. cit., p. 6.
- 11) *Ibid.*, pp. 7-13.
- 12) ロチェスター市のいくつかの出版社から寄付された。
- 13) 当時、アルバニー州立図書館の移動図書館に配置されていた図書冊数は500冊であり、このことから考えると、ソーシャル・センターに配架されていた図書冊数は多いといえる。
- 14) 2カ月毎とは、10月16日から12月15日まで、12月16日から翌年の2月15日まで、2月16日から4月15日までの3期間である。
- 15) 表3-1、表3-2に示されている登録者数は、教育委員会により正式に認められた3施設のみの登録者数である。
- 16) 全参加者数の内、例会あるいは催し物の参加者数は9,334人であった。
- 17) *Rochester Social Centers and Civic Clubs*, op. cit., p. 45, pp. 116-117.
- 18) *Ibid.*, p. 46, p. 118.
- 19) アメリカ合衆国の会計年度は当時1月から12月までであったので、第14ソーシャル・センター活動の支出は、1907年度と1908年度の2年間に渡っている。
- 20) *55th Report of the Board of Education, Rochester, N. Y.*, 1910, p. 10.
- 21) ソーシャル・センターの設立準備に携わったのは学校拡張委員会であり、教育委員会は直接ソーシャル・センター設立に関わらなかった。しかし、教育委員会は法的にすべての校舎や財産の管理者であり、それらの保護と適切な使用に責任があるために、その管理運営の責務を引き受けた。
- 22) *Rochester Social Centers and Civic Clubs*, op. cit., p. 47.
- 23) 校舎をソーシャル・センターに開放した2つの学校長は、学校教育にソーシャル・センターが与えた

効果について次のようにまとめている。①ソーシャル・センター活動のために体育館の器具、他の備品が整備されることにより、昼間学校で使用できる備品が増加する。②児童が年長の少年や若い男性と接し、彼らが町の角ではなく校舎で夜間に時間を過ごすことによって、児童はすばらしい影響をうける。③住民が楽しむためにコミュニティ集会所として校舎を使用することによって、子ども達はこれらの建物が自分たちのものであるという権利概念を新たに身につけていく。

- 24) Rochester Social Centers and Civic Clubs, op. cit., p. 52.
- 25) それ以外にも、日曜日の午後悪い環境で過ごす少年の親から、日曜日の午後は「ギャング」により近隣の小路で「クラブ賭博」が定期的に開かれるので、子どもにとって最も良くない時間帯であるとの訴えがあり、日曜日の開催が第14公立学校の指導主事に求められた。また、聖職者協会 (Ministers' Associations) もソーシャル・センターは日曜日に開催されるべきであると教育委員会に推薦状を提出している。
- 26) 講演者はカトラー前市長、教育委員会委員長のリョーブズ教授、キャロル会長、モーシャー民主主義カウンティ推進委員会議長であった。
- 27) Rochester Social Centers and Civic Clubs, op. cit., p. 34.
- 28) Ibid., p. 122.
- 29) Edward J. Ward (ed.) *The Social Center*, D. Appleton and Company, 1913. p. 202.
- 30) 他の諸都市とは、シラキューズ市 (ニューヨーク州)、スクラントン市 (ペンシルヴェニア州)、ボストン市 (マサチューセッツ州)、フィラデルフィア市 (ニュージャージー州)、ハリスバーグ市 (ペンシルヴェニア州) などである。
- 31) ロチェスター市では、ニューヨーク州で最も有力な共和党組織のボスの1人であったアルドリッジ (George W. Aldridge) を中心としたボス政治が行われてきたが、ソーシャル・センターが設立される前に、彼らの支配は衰退し、市民による新しい政治形態が確立されていた。しかし、1909年頃より彼らの活動が再び活発になり、自由討論を含むソーシャル・センター活動に対する抵抗が強くなっていった。
- 32) 第55ロチェスター市教育委員会報告書では、ソーシャル・センターを社会主義の宣伝活動のセンターであるとする批判に対して、次のように記されてある。この批判は誤解から生じている。社会主義的見方による過激論者などの考えが、孤立したグループ内で強化される場合、非常に危険となる。しかし、個人的観察や自由討論の参加者からの証言から、ソーシャル・センターで社会主義者が社会主義的考えを述べても、参加者同士による自由討論を通して、彼らの考えはより穏健で、より健全な社会的進歩の考えへと導かれる場合が多い。
- 33) George M. Forbes, "Lessons Learned in Rochester," *Bulletin of the University of Wisconsin*, Serial No. 464, General Series, No. 301, 1911. pp12-13.
- 34) ウォードはロチェスター市のソーシャル・センター指導主事を退職した後、1910年にウィスコンシン大学大学拡張部シヴィック・ソーシャル・センター開発局顧問 (adviser) に就任した。
- 35) Ray S. Baker, "Do it for Rochester," *The American Magazine* 70, 1910, pp695-696.
- 36) 連合婦人クラブ (Federated Women Clubs) の代表者達はシティ・ホールまで市中行進をし、労働組合 (Labor Unions)、ユダヤ教の教団などが代表者達をロチェスター市に送り、ソーシャル・センターの存続を訴えた。また、プロテスタント牧師協会 (Protestant Ministerial Association) もソーシャル・センターの支持を宣言したのである。
- 37) ソーシャル・センター指導主事は予算の削減のために、無給で最後までソーシャル・センター活動を支えた。
- 38) Edward J. Ward (ed.) *The Social Center*, op. cit., p. 203.
- 39) その会議を推進した代表者は、ファーム・ランチ・ホーランド・マガジン社の経営者のホーランド (Colnel Frank P Holland) であった。また、その集会には南西部のあらゆる地域から数百人の男女が集まり、民主主義、レクリエーション、近隣のセンターとして校舎を使用する運動に大きな刺激を与えた。
- 40) "The Program of the First National Conference on Civic and Social Center Development," *Bulletin of the University of Wisconsin*, Serial No. 459, General Series No. 296, 1911.

- 41) 温情主義的な考えと民主主義温的な考えとでは、市民および校舎の扱いが大きく異なる。つまり、温情主義的な考えに基づけば、公務員が住民を管理するためにこれらの校舎を使用することになり、民主主義的な考えに基づけば、住民が政府を指導するためにこれらの校舎を使用することになる。
- 42) Edward J. Ward (ed.) *The Social Center*, op. cit., p. 206.
- 43) "Introductory Statement," *Bulletin of the University of Wisconsin*, Serial No. 455, General Series No. 292, 1911, pp. 23-24.

A Study of the Rochester Social Center Movement in the United States

Tsuneo AKAGI

Faculty of College of Liberal Arts and Science,

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712, Japan

(Received September 30, 1995)

SUMMERY

The purpose of this article is to clarify the development and activities of the Social Center Movement in the United States.

On November 1, 1907, No. 14 School was opened as the Social Center and the next year two school buildings; No. 9 School and West High School were opened. In the Social Centers there were the various activities like Clubs, General Evenings, Library, Music, Gymnasium and Art exhibit etc.. Clubs consist of these, Men's Civic Club, Women's Civic Club, Coming Civic Club and Young Women's Civic Club. As the various activities were non-partisan, non-sectarian, everyone in the community freely attended them and there were no dues nor initiation fees.

In the spring 1910 the activities of Social Centers were colsed after the most successful three years by being changed from self-government system to boss-government system.

The results of this use of public school buildings as Social Center were summarized as follows:

First: The needs to become informed upon public matters are not limited to any one section of the community. Many Neighborhood Civic Clubs have developed in every part of the city.

Second: Men and women, whatever their difference of race, class, creed and income, are human and citizens.

Third: There is no danger of abuse of public property by the citizens gatherings in the school buildings. On the contrary, through these meetings, there has been aroused an interest in improving and beautifying the buildings.

Fourth: Entire freedom of discussion is not only safe but is conducive to self-restraint, sincerity, and friendliness.

Fifth: Citizens meeting in the school buildings may be counted on to show a spirit of fairness and to listen impartially to opinions of both sides of every public question.

Sixth: Public servants who are capable of presenting public questions welcome the opportunity to talk to and confer with their fellows which Social Centers offer them.

Seventh: Social Centers attendance not only develop breadth of sympathy and understanding, but tend to find expression for awakened civic spirit in well considered action for the common welfare.

In the autumn 1911, the First National Conference on Social Center Development-which was called at Madison, under the auspices the University Extension Division, Wisconsin University, has taken over the spirit of the Rochester Social Center.

Judging from the development and activities of Rochester Social Center, the ancestor of the Public School Adult Education is the Rochester Social Center in that it established the form which the people freely uses public schools for free discussion of public questions and civic activities.